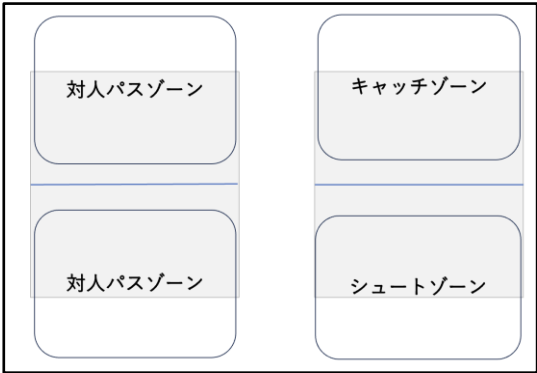


○本時の指導目標（単元構造図と整合性を図る。）

・上達のポイント別に応じた練習方法を選択したり教具を活用したりする活動を通して、自己の課題の解決に向けて運動の取り組み方を工夫することができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）

○学習の展開（学習指導過程）

	学習内容・活動	指導上の留意点・ ★評価規準（評価方法）	学習 形態
導入 10	1 準備運動を行い、本時の活動とめあての確認を行う。 （1） 準備運動を行う。 ・準備体操 ・キャッチボール ・片手パス ・対人パス （2） 本時の活動とめあての確認を行う。	○ けがの防止と主運動につなげるために、体操やバレーボールに繋がる動きを取り入れた準備運動を行わせる。 ○ 主体的に活動に取り組ませるために、生徒の発言や気づきを基にめあてを設定する。その際解決すべき課題を自分事として捉えさせるために、前時の既習内容を想起させたり、発問により思考を引き出したりする。	一斉 ペア 一斉
	めあて レベルアップに向けて、自分に合った練習方法を選択しよう。		
展開 30	2 スモールステップタイムを行う。 【レベルアップのポイント】 ・落下地点にしっかり入る ・正しいパスの形を作る ・下半身をしっかり使う ・狙った場所に正確に返す。 	○ 練習の見通しを持つために、前時までの学習カードから自分の課題を確認させる。 ○ 個人の課題に合った練習方法を選択できるようにするために、ポイント別に段階的な練習の場を設定する。その際、ループリック表を活用し、スモールステップの流れを視覚化する。 ○ 練習方法の工夫をしたり、相互の出来映えを共有したりするために、各練習のグループ・ペア毎に話し合いの場を設定する。 ★ レベルアップのポイントに応じた練習を選択したり、方法を工夫したりして練習に取り組んでいる。（様相観察）	ペア 個人

